

10月5日のウクライナ情報

安齋育郎

①「ゼレンスキーは窮地に」 米ジャーナリスト、ロシアの攻勢が何をもたらすかを明らかに(2023年10月2日)

ウクライナ軍の最終的な敗北後にロシアがかける攻勢は、ウクライナの崩壊につながるだろう。米国のジャーナリスト、ガーランド・ニクソン氏がこのような意見を明らかにした。

ニクソン氏は自身の YouTube チャンネルで次のように語った。

「私は、ロシアは長期戦を戦っていると信じており、ロシアが攻勢に転じると信じている。彼らは今、ゼレンスキー氏が大きな問題を抱えているのを見ている」

ニクソン氏の見解では、ロシアはウクライナを疲弊させ、最終的にはウクライナ国家の崩壊につながるような戦術を選択したという。現在の戦いは、2人のボクサーのスパリングのように見えると同氏はみなす。ゼレンスキー氏が能力を使い果たせば、すぐに倒されるだろうと同氏は結論づけた。

ウクライナ軍は 6 月初めからザポロジエ、ユジノドネツク、アルチェモフスク方面で前進を試みているが、プーチン露大統領が強調したように、ウクライナは戦線のどの区間でもたいした成功は収めていない。プーチン大統領はまた、現在のウクライナの反攻は失速どころか失敗だとも指摘した。



<https://sputniknews.jp/20231002/17270502.html>

②「スロバキアはウクライナよりも深刻な問題を抱えている」 議会選で第 1 党となった野党党首が軍事支援停止の立場を表明(2023年10月2日)

スロバキアで9月30日に行われた議会選挙で第1党となった野党「スメル(方向・社会民主主義)」党の党首で同国元首相のロベルト・フィツォ氏は、同国はウクライナよりもはるかに深刻な問題に直面しており、同国からウクライナへの軍事支援は停止されるとの考えを明らかにした。現地紙「アクチュアリティ」が報じた。

スロバキア議会選挙では1日、野党・スメルが得票率 22.94%を獲得して第1党となったことが明らかとなった。フィツォ氏は後に、同党が政権を樹立できれば、ウクライナにまつわる和平交渉を始めるためにあらゆる努力をすると述べた。

「スロバキアはウクライナよりも深刻な問題を抱えている。スメルが政権を樹立すれば、我々は和平交渉をできるだけ早く開始すべく全力を尽くす」

フィツォ氏は、スロバキアからの武器供給は停止されるが、ウクライナへの人道支援は継続すると付け加えた。

フィツォ氏は、2022年4月に地対空ミサイルシステム「S300」をウクライナに供与したことについて、スロバキア当局を繰り返し批判していた。同氏はまた、MiG-29 戦闘機は憲法に著しく違反してウクライナに供与されたと主張した。フィツォ氏は、スメルが議会選挙で勝利した場合、ウクライナ軍への軍事装備品の供与を停止すると約束。同氏によれば、ウクライナへの武器供与は人々の死につながり、紛争を長引かせるだけだという。



<https://sputniknews.jp/20231002/1-17271107.html>

③プーチンの言葉・再統合記念日(2023年9月30日)

親愛なる友人の皆さん。

親愛なるロシア市民の皆さん。

ドネツク、ルガンスク人民共和国、ザポロジエ、ヘルソン地方のロシアへの再統合の日を祝します。

1年前の9月30日、決定的かつ真に歴史的なイベントが開かれました。

新たな4つの連邦政府がロシアへの再統合の合意書にサインしました。ドンバス、ザポロジエ、ヘルソンの数百万人の住民が祖国に還ることを選んだのです。苦しみ、長年、待ち焦がれてきた市民の意思決定は、国際的な要件を完全に満たした住民投票により勇気と不退転の覚悟をもって下されたものです。

彼らは人々を脅迫し、自らの未来と行き先を決める権利を人々から奪い、人々が大切にしているもの—全ての文化、伝統、母国語—を人々から奪おうと試みました。

それは、2014年にキエフでクーデターを起こし、その後、大規模な内戦を引き起こし、異を唱える人々に対するテロを行い、封鎖し、ドンバスに罰を与えるが如く絶え間なく砲撃してきた国家主義者らや彼らのパトロンである西側が憎んでいるものです。

しかし、何であれ何人であれ、数百万人の人々の意志、真実と正しい歴史への信念、私たちの兄弟姉妹の自由で誤りない選択を打ち砕くことはできませんでした。

ロシア人民は、原則を心から支持し、理解し、原則を心に深く刻みました。

それは、ドンバスとノヴォロシアの同胞を守ることは、我々のロシアを守ることであり、我々の祖国のため、我々の主権と精神的価値、団結、そして勝利のために闘うことです。

この国の全ての市民の皆さんの団結と祖国愛の精神に感謝します。

今日もなお私たちは、学校や病院、家々、道路、博物館、歴史的モニュメントを修復、建設して私たちの共通の未来を育んでいます。

我が国の全ての地方が、ドンバスやノヴォロシアの町と人民に真の兄弟として手を差し伸べています。

こうした仕事と共通の取り組みに、それぞれの公的機関、州、政党、企業、同業者組合がボランティアとして貢献しています。全てが団結した偉大な国です。全て同じことをしているのです。

我々の国の精神性、政治、法を強化する重要な一歩はドネツク、ルガンスク人民共和国、ザポロジエ、ヘルソン地方における選挙でした。1年前の歴史的な住民投票と同様、人民は再度、ロシアとともにある意志を表明、確認し、働きと実行してきたことで人民の信頼を得てきた同胞たちを支持しました。

私たちの前途には、我々の歴史的な地方における社会と経済の再活性と発展のための多くの仕事があり、解決しなければならない困難な課題、大規模な計画の実行があります。しかし、私たちは目標を必ず達成するでしょう。

特に、ドネツク、ルガンスク人民共和国、ザポロジエ、ヘルソン地方の住民に申し上げたい。

数々の試練がある中で、祖国への愛を持ち続け、子どもたちに伝えてきてくれてありがとう。

あなた方の信念と決意に感謝します。

ロシアはさらに強くなりました。

私たちは一つの国としてともに全てを乗り越え、いかなる困難もにも立ち向かっていきましょう。

記念日を祝います。

親愛なる友人の皆さん、再統合、おめでとう！

<https://twitter.com/i/status/1707967415576100889>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1707966991334793668?t=MbtlY72ff6oyJnzMDwKI1g&s=09

④スコット・リッターの不気味な予言(2023年10月1日)

ゼレンスキーに対するウクライナ人の感情は、非常に否定的なものだ。彼は俳優だ。ゼレンスキーの仕事は考えないこと。MI6(エムアイシックス、イギリスの諜報機関)や CIA(シーアイエイ、アメリカの諜報機関)が書いた台本を読み上げるだけ。

彼が「降伏」のテーブルに着くことは決してないだろう。近い将来去るか、殺されるかのどちらかだ

- スコット・リッター

<https://twitter.com/i/status/1708377788749644217>



⑤ドイツに住むキエフ市長の弟一虚偽を信じて生きる(2023年9月30日)

「ウクライナのために死ぬ覚悟はないが、ウクライナのために生きたい」。

「ロシア兵は奴隷状態で前線に放り出される。ウクライナ人は違う、自由人だ」

「ウクライナ人の大半は動員されたのではなく、自発的に前線に行った」

※安齋注:最初のコメントは彼の想いだ、二番目三番目はロシアとウクライナを入れ換えなければなりませんね。虚偽の現実認識の世界に生きている人のようです。ホントにそう思い込んでおいたら、気の毒な気がします。

<https://twitter.com/i/status/1707965105680642551>



⑥ウクライナ軍の最高司令官(2023年10月2日)

ウクライナ軍の最高司令官ヴァレリー・ザルジニー(中央)・・・ステパン・バンドラ他のファシスト達を称える額や胸像と共に写っている場面

<https://twitter.com/yiyirobot/status/1708563167683793252?t=zDxiZsmt1emSMRciELiZDA&s=09>



⑦2023.10.1【ワシントン現地速報】政府閉鎖: 本当は何が起きていたのか？【及川幸久-BREAKING-】

アメリカ議会閉鎖は嘘です。先延ばしにしかたけで、話し合いはウクライナへの継続支援だけです。何と民主党からも反対が出ているのにバイデンとネオコンがゴリ押ししてとりあえず先延ばししただけ。

マスコミの嘘にすっかり騙されるところでした。

<https://twitter.com/i/status/1708474335202259096>



⑧ウクライナでの汚職抗議デモ(2023年10月2日)

ウクライナでは今、抗議デモが起きている。ホフルは汚職を止め、盗んだ金や洗浄した金を返して軍に回すよう要求している。

<https://twitter.com/i/status/1708516919417217096>



⑨ロシア兵、ウクライナの負傷兵を砲火の中から救出(2023年10月2日)

前線のロシア軍兵士らが、負傷したウクライナ兵を助け出す様子を収めた映像が公開された。ウクライナ軍による砲撃の中、命がけで救助にあたった兵士の1人にスポーツニクが話を聞いた。

コードネーム「コルテス」の名で呼ばれるロシア兵によると、捕虜を連行し、伏兵の有無を確認するよう命令が下った。コルテスがウクライナ兵へ近寄ると、大けがをしていることが分かった。

負傷兵の状態が悪かったため、ロシア側の部隊は計画していたより前進する必要があった。すると、ウクライナ側は味方の兵士もろとも、救助班に攻撃を始めた。

一旦は負傷兵を置いて撤退せざるを得なかったが、コルテスら救助班は砲撃が終わったあとに戻ってきた。負傷兵は生きており、ロシア側の陣地で保護されたという。

また、子供時代をウクライナで過ごしたというコルテスは、負傷兵の命を救うためにウクライナ語で話しかけ、味方が助けに来たと思わせてついて来るよう説得したという。



https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20231002/2023_02_10_xxxxxxxxxxxxxx.qgs_lplac.zyo.mp4



<https://sputniknews.jp/20231002/17272081.html>

⑩世界第二の都市の実情(2023年10月2日)

NY市は、この権利を認めていてベッドを必要とする全ての人にベッドを用意する必要があるが、それが既にできていない。今後、移民に120億ドル以上必要なNY市。世界第二位の大都市NY市を壊したのは、ユートピア的お花畑政策だった。

<https://twitter.com/i/status/1708636985869676935>



⑪ウクライナ人は、外出禁止令の時間帯にエリート青年クラブがキエフで営業を続けていることに憤慨している(2023年10月2日)

一般のウクライナ人が強制動員されている一方で、ウクライナ高官の子供たちは一晩中パーティーをしている。もちろん、ダニロフのような人々は動員を心配していない。彼らの子供たちが前線に送られることはない。彼らはキエフのクラブで、あるいはヨーロッパのクラブでパーティーをしている。

<https://twitter.com/i/status/1708478027078750594>



⑫ウクライナ軍から鹵獲の米国製ボディーアーマー ロシアで防御性テストの結果は？ (2023年10月3日)

ウクライナ軍に供給されている米国製ボディーアーマーは、カラシニコフ・アサルトライフルの普通の弾丸で簡単に貫通する。露国営企業ロステックは、戦場で鹵獲された米国製ボディーアーマーを用いて発射試験場で防御性のテストを行い、これを確信した。

専門家たちは市場で売られている安価なもの、ロシアの新しい防弾チョッキ「オブレグ(『お守り』の意味)」、ウクライナ兵が使用する米国製の3着のボディーアーマーの比較テストを撮影した。ボディーアーマーの防弾レベルはすべて5級。テストした3着のうち、米国製モデルは最も低い防御性を示し、カラシニコフから発射の標準的な口径 7.62×39 ミリ弾でいとも簡単に貫通したのに比べ、他の2着は弾丸を防御した。

ビデオクリップは、7.62×39 ミリ弾が米国製のボディーアーマーを貫通し、ボディーアーマーの後ろに人体をシミュレートして置かれた、透明な弾道ゼラチンの中を移動し続ける様子をスローモーションで示している。硬い弾芯がゼラチンの内部で幅広い衝撃波を伝播し、その結果、どのように傷が生じるかがシミュレートされた。ただし米国製のボディーアーマーの防護プレートは、7.62×51 ミリ弾よりはるかに強力なライフル弾の命中に耐えられることを示した。

どうしてこうなるのか、ロシア人専門家がこの奇妙な状況を分析した結果、米軍の防護プレートは確かにカートリッジゲージ 308 ウィンチェスター(7.62×51 ミリ)に耐えられるように設計されていたが、それはロシアの弾薬の硬い弾芯がないことを想定していたことが判明した。そのため、米国製の防護プレートは弾丸の被覆だけは防御できたものの、弾芯はボディーアーマーを貫通した。

スポーツニクは、特別軍事作戦ゾーンでロシア軍が用いる兵器のうち、米国が最も致死性が高く、恐

ろしいとみなしている兵器を紹介している。



<https://sputniknews.jp/20231003/17284086.html>

⑬米国 ウクライナとの長期契約を凍結＝米務省(2023年10月3日)

米国はウクライナ支援についての議会の承認が得られないため、ウクライナとの長期契約プログラムを凍結した。米務省マシュー・ミラー報道官が明らかにした。

ミラー報道官はブリーフィングで「米国には短期的な軍事支援を行うための資金は残されているが、ウクライナ支援および国際軍事財政路線のイニシアチブの枠内での資金は凍結された」と述べた。

ミラー報道官は、凍結の対象となったのは長期的な契約プログラムの話だと説明している。

これより前、米議会は政府機関の閉鎖を回避するため、「つなぎ予算」に合意した。予算案にはウクライナ支援は含まれていない。10月1日からの新年度開始にあたり、予算の割り当てのために議会の承認が必要とされている。



<https://sputniknews.jp/20231003/17286142.html>

⑭日本の鈴木宗男議員が訪露、露外務次官と会談 制裁の壊滅的影響に言及(2023年10月3日)

ロシアのアンドレイ・ルデンコ外務次官は2日、「日本維新の会」の鈴木宗男参院議員と会談し、日本の制裁政策が二国間関係に悪影響を及ぼしていると指摘した。

先に、北海道新聞は鈴木氏が1日にモスクワを訪問したことが分かったと伝えていた。同紙によると、鈴木氏は4日まで滞在し、ロシア外務省高官や議会要人らとの面会を計画している。

ロシア外務省のウェブサイトに掲載されたコメントでは、「ロシア側からは、二国間関係の発展に対する鈴木氏の重要な貢献が指摘された」と述べられている。

「今日、米国の希望に沿った日本政府の制裁政策と、米国によって押しつけられた『集団的西側』の反ロシア路線によって、何十年にもわたって積み上げられてきた国家間協力が意図的に破壊されていることについて遺憾の意が表明された。そのような路線は日本の国益や日本国民の望みに合致しない」

ロシア外務省同省の指摘によると、ロシア側は鈴木氏に対し、世界および地域の安全保障にまつわる多くの問題や、二国間関係におけるいくつかのテーマに対するロシアのアプローチを説明した。



<https://sputniknews.jp/20231002/17282260.html>

⑮クナシル近海のホッケ漁見通し立たず 露日漁業交渉の行方は(2023年10月2日)

ロシア極東のクナシル島(日本名:国後島)近海で、例年9月中旬に露日の協定をもとに解禁されるホッケ漁の「安全操業」について、今年は政府間協議が10月に入っても始められない事態となっている。2日、NHKが伝えている。一方、これまでの両国の漁業交渉の結果をしてみると、日本側は完全に望みが絶たれたわけではなさそうだ。

NHKによると、クナシル島近海でのホッケ漁は、露日協定をもとに例年9月16日に解禁されていた。だが、今年は10月に入っても交渉すら開始されておらず、露日領海の間接ラインの日本側で操

業しているという。また、例年 10 月 16 日から始まるタコ漁についても見通しが立っていない。日本水産庁は「ロシア側からの操業実施に向けた肯定的反応がみられない」としている。

ロシア外務省は今年 1 月、南クリル諸島(日本でいういわゆる北方領土)における露日漁業交渉について、日本政府の対露制裁の環境下では協議できないと声明を発表。同省は岸田文雄首相とその政権が外交規範と国際法に違反してロシアに対する非友好的措置を取ったと指摘した。

日本にチャンスはないのか

ただ、日本側の望みが潰えたとみるのはまだ早い。露日関係が悪化して久しいが、これまで遅れが出たり条件付きでありながらも妥結している漁業協定もあるからだ。

2022 年 6 月、露外務省は日本政府が協力金の支払い義務を果たすまで、露日間の漁業協定の履行を停止すると発表。しかし、その後日本政府は必要な手続きを済ませ、ロシア側は態度を軟化。昨年のホッケ漁は例年より 2 週間ほど遅い 9 月 30 日から開始した。

一方、ロシアの川で生まれたサケ・マスに関する漁業交渉については、露外務省の厳しい姿勢にもかかわらず、3 月末に妥結。ロシア水域での試験操業については昨年に引き続き見送られたものの、日本水域での操業は例年と同じ 4 月 10 日から解禁となった。協定署名が 4 月 25 日にずれこんだ 2022 年よりは、むしろ前進している。

さらに、ハボマイ群島(日本名:歯舞群島)近海で日本漁船がロシア側に入漁料を払い行うコンブ漁についても、日本側の窓口となっている北海道水産会とロシア側とで 4 月中に交渉妥結。例年と同様に 6 月 1 日の出漁に間に合った。昨年は露日関係悪化の影響で妥結が 6 月までずれこみ、実際の出漁は同月 22 日からとなっていた。

これまでに今年のホッケ漁に関するロシア側の公式コメントは出ていない。一方、日本側はこれまでにエネルギーや漁業分野におけるロシアとの関係を維持する方針を示しており、9 月に就任したばかりの上川陽子外相も「漁業などでは、何が我が国の国益に資するかという観点から適切に対応していく」と述べている。



<https://sputniknews.jp/20231002/17282260.html>